令和７年度　広川町立下広川小学校　学力向上プラン

【別紙様式例１】

２学期制

■視点１－❷

《中期目標》自分に自信をもち、主体的に学び、仲間と共にさらに高め合う子供の育成

＜指標＞　**令和10年度全国学力・学習状況調査**

①標準化得点▶国語科**107**以上 算数科**106**以上　②主体的な学びに関する児童生徒質問に対する肯定的回答割合▶全国平均＋５％以上

《短期目標》「自己決定」・「自己解決」できる子供の育成

＜指標＞令和８年度全国学力・学習状況調査において、C層・D層の割合の合計が国語２１％　算数１９．７％未満

■視点５

【家庭･関係機関との連携】

〈取組（指標）〉

⑤ドリルパーク等を用いた家庭学習（自主学習）
⑤学年×10分の設定と学校生活アンケート結果（80%以上）

評価	
４～９月	１０～３月

〈成果（指標）〉

◆家庭学習に取り組む平均時間の増加
▶家庭学習に関する保護者アンケート結果
１・２学年10・20分以上が80%達成
３・４学年30・40分以上が80%達成
５・６学年50・60分以上が80%達成

評価	
４～９月	１０～３月

■視点２

【授業づくり】

〈取組（指標）〉	評価	
①②③学習への見通しをもち、自分でめあてを立てさせるために、週案に**自己決定**場面を毎時間明記して授業に臨む。（児童・教員アンケート▶80%達成） ④タブレット活用による協働的な学びを行い、ペア学習やグループ学習の中で**自己解決**できるようにする。（児童アンケート▶80%達成）	４～９月	１０～３月

〈成果（指標）〉	評価	
◆「自己決定を見取る」（児童アンケート▶80%達成） ◆「タブレットを授業で使うことができる・まとめを自分たちで作る等」（児童アンケート▶80%達成）	４～９月	１０～３月

■視点３

【学力基盤づくり】

〈取組（指標）〉	評価	
③「**下広小の約束**」の「足ペタ・腰立てピン・パッと手をあげる・パッと見て聴く」を全校で指導する。（児童アンケート▶80%達成） ④朝の活動【火・金の２日】で、自分で決めた読書冊数や、毎月の冊数を**タブレットでグラフ化**しながら、目標達成に向けて意欲を持続させて読む力を高める。（個人の目標読書冊数80%の児童が達成）	４～９月	１０～３月

〈成果（指標）〉	評価	
◆「下広小の約束」の中の学習規律の項目（児童アンケート▶80%達成） ◆「進んで読書をする」（目標読書冊数を80%の児童が達成）	４～９月	１０～３月

■視点４

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組（指標）〉

④１時間の学習の中に「自己決定」できる場を設定できるICT活用力（１日一回以上ICTを活用する100%）
①②③主題研修における学び合いを重視した年間６回以上の授業公開（一人年間６回以上）

評価	
４～９月	１０～３月

〈成果（指標）〉

◆授業についてのアンケート（タブレット活用▶3.5以上）
◆一人年間６回以上、２教科以上のICT活用の授業公開（教員アンケート▶100%）

評価	
４～９月	１０～３月

■視点１－❶

県学力調査,全国学力調査及び「授業評価アンケート」、「授業チェックリスト」等から見た「課題」

四分位層の県との差、標準化得点		国語					算数・数学				
		A層	B層	C層	D層	標準化得点	A層	B層	C層	D層	標準化得点
	R６県調査	+5.6	+0.3	-5.9	-11.8	108.9	+13.5	+0.9	-2.7	-11.8	114.4
	R７全国調査（県１００）										

課題

○　R6福岡県学力調査において、国語科の記述式の標準化得点が低い（国語科36%）。
○　R6福岡県学力調査において、国語科のC層の割合が高い（26.3%）。
○　R6全国学力調査質問から、「ICT機器を1時間以上学習で使う」の割合が4.8%と全国より15%低い。
○　R6全国学力調査質問から、「先生はあなたのよいところを認めてると思う」の割合が38.1%と全国より10.7%低い。

授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」

①国語科の記述式の正答率が低いのは、何が書かれているかを理解し、大事な言葉を選んだり、それらをつなぎ合わせたりして文にする力が身に付いていないことが要因。
②国語科のC層が多いのは、「読む力」が定着していないことと、個に応じた指導ができていないことが要因。
③「先生からよさを認めてもらう」の割合が低いのは、教師の称讃の言葉かけが少ないことが要因。
④ICT機器の活用した学習が低いのは、教師がICT機器を活用・使い方の指導ができていないことが要因。
⑤自主学習・家庭学習の内容、取り組ませ方（ICTの活用した宿題や自主学習）の共通理解と共通実践が不十分であることが要因。